

くつろ木とやすら木



■ 設計主旨

島の高齢者が元気を取り戻し、明るい未来へ安心して歩めるよう島の港付近にカフェと休憩場を兼ねた憩いの場を設置した。

女木島を訪れる観光客は主に海や鬼が島、景色やアートを目的とし訪れる。

観光客が歩きつづけた時や、島の住民、誰もが使用できる場だ。

幅、奥行きと7mのウッドデッキにさまざまな高さや幅の木箱を重ねたり、ずらすなどして設置したアスレチック家具。

これは時と場合や使用する目的によって、テーブルにしたり椅子にしたり、もしくは寝転がったりなど、さまざまな使い方が可能で持続して使用し続けることができる。

ウッドデッキを丸くり抜き、その中に足を入れ座れるように工夫したテーブル、

勾配を30°の傾斜にし、座れやすいまた横になった時に体勢が楽になる。

などさまざまな工夫を施した。また、利用しやすい雰囲気を出すためにウッドデッキと道の間にある壁を取り除いた。

これにより、個人の空間を守れ観光客と住民の交流が増える。

そして島の高齢者が明るさを取り戻し、女木島自体が活気づける。

また持続可能な工夫によって、衰えることなく安心して未来を見つめられることができるのだ。



従来の家



壁を取り除き外に開く



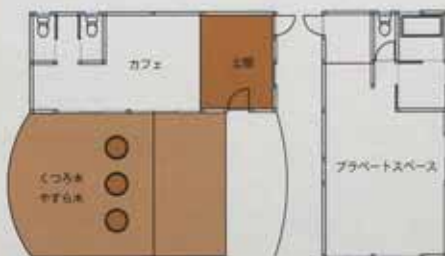
スペースを開ける



道を続ける

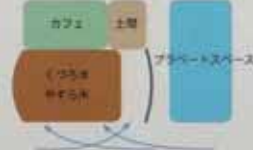


建物と人、人と人がつながる



plan 5:1,100

前面道路にあった壁を取り除くことによって、気軽に行けることができるようにしている。カフェへの入り口へと導く壁とウッドデッキの端を柔らかな曲線にすることにより、人をやわらかく包み込むように導く。



カフェの真ん中付近、丸柱の周囲に本棚を設置した。

丸にすることにより360度どこからでも本が取れ、木の周りを自然と一周しカフェ全体を見せることができる。そうしてやわらかく、やすらぎの空間が形成される。

そして、大規模な窓によって開放感と透明感がおおいに感じられる。



女木島 香川県高松市
瀬戸内海に位置する
高松からフェリーで20分
乗船料 370円

面積 2.67 km²
周西 7.8 km

人口
1960年 883人 207世帯
2011年 192人 112世帯

